YAMAGATA

大石田・尾花沢版 おくのほそ道 歩くマップ

行程図［出羽路編］

芭蕉が歩いた行程

山形県
尾花沢ITものづくり研究会

平成23年3月発行

大石田まつり「最上川花火大会」

8月16日開催

最上川に架かる永久橋「大橋」の完成を祝し、70有余年の歴史を持つ町最大のまつり。数千の灯篭が流れる中、ラストには町民号・20号玉10連発」が打ち上がり、その圧倒的な迫力で夜空の激震を体感できます。

大石田 おすすめルート

大石田駅（10分）→【乗舩寺・高桑川水墓】（5分）→ 9 最上川（5分）→【芭蕉翁真蹟歌仙碑・高野一栄宅跡】（40分）→【向川寺】（30分）→【西光寺】（10分）→ 大石田駅

「おくのほそ道」大石田

5月28日（陽暦7月14日）
芭蕉と曾良は、山寺から馬を借りて天童へ向かい本飯田まで高桑川水が迎えにきてくれた。午後2時20分ごろ、大石田の高野一栄宅に着いた。この夜は疲れたので俳諧はなく、休んだ。

5月29日（陽暦7月15日）
歌仙の発句から一巡を終え、芭蕉は一栄と川水を誘って黒瀧山向川寺へ参詣した。曾良は疲れて同行しなかった。午後2時20分に大石田に戻ったが、道の途中で俳諧があった。夕飯は川水宅でご馳走になり、夜に入り一栄宅に帰った。

5月30日（陽暦7月16日）
四吟歌仙『さみだれを』完了した。発句は、芭蕉の「さみだれをあつめてすゞしもがみ川」である。

9 最上川
水量豊かな最上川は、五月雨時期にはまさに雄大で力強い風景を眺望することができます。
芭蕉も最上川の雄大さに「さみだれをあつめて」の句を詠んでいます。
現在は、日本三大急流で一級河川にも指定されています。

⑫西光寺
おくのほそ道で巻いた歌仙十三巻の中で唯一、芭蕉自筆による「さみだれを」の歌仙は、元禄二年大石田で巻かれた。江戸時代（明和年間）に建てられた「さみだれを」の句碑があります。

⑪向川寺
600余年の法灯を伝える曹洞宗の名刹。芭蕉をはじめ多くの文人がこの参道を踏みしめました。また、大イチョウや大桂があり、近くから田園の眺望が楽しめます。芭蕉は一栄、川水を伴い参詣しています。

⑩芭蕉翁真蹟歌仙碑・高野一栄宅跡
高野一栄は山形藩領大石田村の組頭であり、船持荷問屋を営み、尾花沢の鈴木清風とは経済的な交友もあった。一栄宅で芭蕉、曾良、一栄、川水の四人で歌仙一巻を巻いています。

⑧乗舩寺・高桑川水墓
乗舩寺内に高桑川水墓がある。高桑川水は山形藩大石田村大庄屋で山寺から引退した芭蕉、曾良を本飯田まで迎えにいっています。

サポート情報

市外局番 0237

■大石田地区 ◆尾花沢地区

宿泊施設 日帰り入浴可能施設

●温泉宿

◆旅籠 いとうや	☎28-2025	◆瀧見館	☎28-3399
◆勘兵衛荘	☎28-2332	◆旅館 永澤平八	☎28-2137
◆銀山荘	☎28-2322	◆能登屋	☎28-2327
◆古山閣	☎28-2039	◆藤屋	☎28-2141
◆古勢起屋別館	ご予約は銀山荘へ	◆旅館 松本	☎28-2021
◆酒田屋	☎28-2034	◆御宿 やなだ屋	☎28-2030
◆昭和館	☎28-2151		

●ホテル・旅館

◆加登屋旅館	☎22-0020	◆森のホテル御所山	☎28-2121
◆すがはらビジネスホテル	☎22-0639	■あったまりランド深堀虹の館	☎35-5353
◆旅館 鈴の湯	☎22-1741	■最上屋旅館	☎35-2015
◆ビジネスホテルおもだか	☎23-3050		

交通案内 ★はガイドドライバー（おもてなしドライバー）在籍

●タクシー

◆尾花沢タクシー★	☎23-2525
◆しののめ観光タクシー尾花沢営業所★	☎22-1244
■しののめ観光タクシー★	☎35-2525
■つばさタクシー	☎36-1231

●レンタカー

◆大星レンタカー	☎22-2206
◆奥田自動車	☎22-0463

そば

●おくのほそ道尾花沢そば街道

1番所 手打ちそば たか橋	☎22-0460	8 番所 きそば 茶屋	☎22-2081
2番所 そば処 明友庵	☎22-1819	9 番所 そば処 鶴子	☎28-3041
3番所 麺工房 そば匠	☎23-3033	10番所 銀山 だんごや	☎28-2235
4番所 食事処 柏屋	☎22-0151	11番所 名代そば処 福原屋	☎22-0035
5番所 そば処 甲州屋	☎22-0125	12番所 食処 伊豆の華	☎28-2036
7番所 そば処 べにばな庵（徳良湖温泉 花笠の湯内）	☎24-1160	13番所 滝とそばの宿 滝見館	☎28-2527

●大石田そば街道

1.七兵衛そば	☎35-4098	9.蕎麦屋まんきち	☎35-3620
2.そば座敷 平吉	☎35-4091	10.そば処 ふうりゅう	☎36-1516
3.次年子産業協同組合	☎35-4150	11.おそば 美登利	☎35-2133
4.そば切り 源四郎	☎35-6307	12.そば処 善之助	☎35-2723
5.手打次年子そば	☎35-2870	13.来迎寺そばや 作兵衛	☎35-2735
6.わらぐちそば	☎35-4148	14.手打ち大石田そば きよ	☎35-4245
7.そば 吉峰	☎35-4839	15.蕎麦処 若佐	☎35-5335
8.丹生川グルメハウスざっこや	☎35-5166		

※組合加盟店のみ連載

アクセス

JR新幹線・在来線をご利用の場合

東京 ― 山形新幹線 約3時間 ― JR 大石田駅
仙台 ― 仙山線 約1時間 ― 羽前千歳 ― 山形新幹線等 約30分 ― JR 大石田駅

高速自動車道・一般道ご利用の場合

東京 ― 東北道・山形道 約6時間 ― 山形JCT ― 東北中央道 約10分 ― 東根IC ― 国道13号 約25分 ― 大石田町 / 尾花沢市
仙台 ― 国道48号 約50分 ― 東根 ― 国道13号 約20分 ― 大石田町 / 尾花沢市
古川 ― 国道347号 約1時間15分 ― 大石田町 / 尾花沢市

飛行機をご利用の場合

東京 ― JAL 約55分 ― 山形空港 ― 国道13号 約25分 ― 大石田町 / 尾花沢市
伊丹 ― J-AIR 約1時間20分 ― 山形空港 ― 国道13号 約25分 ― 大石田町 / 尾花沢市

◎町村役場 ◉市役所 ⊗警察署 ⊗交番 〒郵便局 文小中学校 ⊗高等学校 保育園 銀行
博物館 温泉 バス停 消防署 幼稚園 神社 寺院 名跡 芭蕉句碑
P駐車場 トイレ 電話 ガソリンスタンド Hホテル・宿泊施設 お食事処 そば屋 コンビニ ビューポイント
キャンプ場 東屋 桜の名所 つつじの名所 信号 13 国道 28 県道・市道 JR 橋

インフォメーション

尾花沢 観光のお問合わせ先 尾花沢市観光物産協会 TEL.0237-23-4567
尾花沢市役所 ☎22-1111 芭蕉・清風歴史資料館 ☎22-0104
歴史散歩の会 ☎53-0246

大石田 観光のお問合わせ先 大石田町観光協会 TEL.0237-35-2111
大石田町役場 ☎35-2111 町立歴史民族資料館 ☎35-3440
大石田駅観光案内所 ☎36-1515

山形県 観光のお問合わせ先 やまがた観光情報センター TEL.023-647-2333

企画/制作：尾花沢ITものづくり研究会 http://it.obanazawa.net/okunohosomichi/

「おくのほそ道」尾花沢
～芭蕉と曽良 さすがにもてなしはべる～

元禄2年（1689年）3月27日（陽暦5月16日） 松尾芭蕉は、弟子の河合曾良をともなって江戸深川を出発し、奥羽ー北陸の旅に出ました。尾花沢には、山刀伐峠を越え、5月17日（陽暦7月3日）、昼過ぎ旧知の鈴木清風宅に着き、この日は清風宅に泊まった。

5月18日（陽暦7月4日） 昼、養泉寺で風呂に入り、この日から養泉寺に延べ7泊した。

5月19日（陽暦7月5日） 村川素英が養泉寺で奈良茶飯をご馳走した。

5月20日（陽暦7月6日） 小雨 記事なし

5月21日（陽暦7月7日） 朝、鈴木小三郎（東水）宅、晩、沼沢所左衛門（遊川）宅に招待され、この夜は清風宅に泊まった。

5月22日（陽暦7月8日） 晩、村川素英に招待された。

5月23日（陽暦7月9日） 夜、沼沢藤左衛門氏富（秋調）に招待された。この夜、日待ち（ひまち）の行事があり、その夜は清風宅に泊まった。

5月24日（陽暦7月10日） 晩、田中藤十郎（一橋）が養泉寺でもてなした。

5月25日（陽暦7月11日） 夜、沼沢藤左衛門氏富（秋調）が庚申待（こうしんまち）に招待した。

5月26日（陽暦7月12日） 昼より沼沢所左衛門（遊川）宅において歌川平蔵（東陽）がもてなした。

5月27日（陽暦7月13日） 晴れ、午前6時30分ごろ尾花沢から山寺立石寺へ向かった。鈴木清風が楯岡まで馬を用意してくれた。

尾花沢ゆかりの句

※歌仙「すずしさを」と「おきふしの」の二巻を巻いています。

涼しさを
我宿にして
ねまる也　芭蕉　❹

這出よ
かひやが下の
ひきの声　芭蕉

まゆはきを
俤にして
紅粉の花　芭蕉

蚕飼する
人は古代の
すがた哉　曾良

❸念通寺

花邑山念通寺は寛永7年（1630年）に花邑浄願坊によって創建された真宗大谷派の寺で、本堂伽藍は、鈴木家三代目八右衛門・清風の私財により建立されました。竣工は、起工から2年の歳月を経た元禄10年（1697年）。

❹養泉寺

尾花沢10泊のうち7泊を、芭蕉たちはこの養泉寺で過ごしました。これは気兼ねなく長旅の疲れを癒してもらうという、清風のはからいによるものです。境内には芭蕉が詠んだ「涼しさを我宿にしてねまる也」の句碑、いわゆる「涼し塚」と、芭蕉や清風たちの歌仙の連句碑があります。

❼村川素英之生前墓

素英は芭蕉の滞在中、清風に代わって接待役を務めた俳人です。上町観音堂には素英の生前墓があります。四角いシンプルな造りで、「村川素英之生前墓」と書かれた標柱があります。

各名所の詳しい情報は、右記のQRコードで携帯電話から簡単にアクセスすることができます。（通信料がかかります。）

❷・❸・❹・天子塚の写真は尾花沢市役所提供

花笠のまち観光案内所

市内幹線道路沿いのコンビニ、飲食店、ガソリンスタンド、農産物直売所等に「花笠のまち観光案内所」ののぼりがあります。
市内の道路案内や見どころ情報など、お気軽にお尋ねください。

雪降り和牛

尾花沢産黒毛和牛"尾花沢牛"の中でも肉質が極上の最高級牛肉を【雪降り和牛尾花沢】としています。市内提供店：金鶴／レストラン徳良湖／満月

尾花沢すいか

夏スイカ日本一の尾花沢スイカは、甘くて大きいくシャキッとした歯ざわりが口の中いっぱいに広がるみずみずしいスイカです。名実ともに日本の夏の風物詩として親しまれています。

花笠踊り発祥の地

毎年、8月27～28日に市の中心街では尾花沢花笠まつりが開催され優雅でダイナミックな笠遣しの踊りを見ることができます。

天子塚

伝順徳上皇の御陵。順徳上皇は後鳥羽上皇とともに鎌倉幕府を倒そうとして失敗し、佐渡ヶ島へ流されたが後に脱出し尾花沢を隠れの地としたという伝説があります。塚の奥に二股の老杉があり、その下に上皇が眠るといわれています。

御所神社

承久の乱で佐渡へ流された順徳上皇は随従の臣安部常次郎時頼とひそかに島を脱出し、この地で亡くなられたと伝えられています。後に、常次郎聖廟を建てて順徳上皇を奉祀しました。

大正ロマン漂う温泉街

大正時代の面影を残す温泉街。ガス灯に照らされた家並みが情緒豊かで、新緑、紅葉、雪景色など、季節によっても様々な表情があります。

❶関谷番所跡

関谷村には、尾花沢代官所の番所が置かれていました。当時の番所は、柴崎与左衛門氏宅であったと伝えられ、同家には寛永13年（1636年）と寛永18年（1641年）の山形藩保科氏が出した「番所掟」（尾花沢市指定文化財）が残されています。

山刀伐峠は最上町版をご覧ください。

尾花沢中心部 おすすめルート

尾花沢バスターミナル
↓（4分）
❶関谷
↓（20分）
❷【芭蕉・清風歴史資料館】
↓（20分）
❸【念通寺】
↓（7分）
❹【養泉寺】
↓（7分）
❺鈴木清風宅跡
↓（7分）
❻【芭蕉・清風歴史資料館】
↓（20分）
❼【村川素英之生前墓】
↓（10分）
尾花沢バスターミナル

尾花沢市内（宮沢地区～中心部）おすすめルート

市野々
↓（20分）
❶関谷
↓（70分）
正厳
↓（20分）
二藤袋
↓（40分）
❷【芭蕉・清風歴史資料館】

❷❻芭蕉・清風歴史資料館

鈴木清風邸跡のとなりに商家の建ものを移築したもので、江戸時代末期の町家の姿を今に伝えています。展示は「おくのほそ道」関係を中心に、尾花沢の歴史や暮らしに関するものを集めています。

■開館時間 9:00～16:30（11月～2月までは9:30から）
■入館料 大人200円、学生100円、中学生以下無料
■お問合せ 山形県尾花沢市中町5番36号 TEL.0237-22-0104

大石田町をご覧ください。（裏面）

尾花沢市歴史散歩の会

松尾芭蕉が訪れ、多くの人たちと交流した"みちのくの世界"をゆったりとした時間の中で、新たな自分を発見してみませんか。「おくのほそ道」出羽路をご案内いたします。

■案内時間 9:00～16:30（要予約）
■お問合せ 山形県尾花沢市上町2-4-45-204 TEL.0237-53-0246

D 尾花沢市内

おすすめルート
芭蕉が訪れた地